
ごあいさつ

大阪市立大学の歴史は古く、その発祥は明治時代にまでさかのぼりますが、大学としての歩みは、1928年に設立された大阪商科大学に始まります。その後、徐々に拡充され多数の学部を擁する総合大学となりました。さらに、大学院教育の重点化を図り博士課程をもつ研究型大学とし発展してきました。文学部は、その歩みのなかで1953年に創設されました。以来、今日いたるまで、一貫して基礎学を軸に時代の変化や社会のニーズに応えられる教育研究を展開して参りました。加えて、これまで4名の学士院賞受賞者を輩出するなど、重厚な人文学研究の伝統を築き、その伝統の上に各学問分野の第一線で活躍する優秀な研究者を多数集めている点も文学部の大きな強みといえます。文学部が飛躍的に発展する契機となりましたのが、大学院重点化を果たした2001年の翌年に文部科学省による世界的研究拠点形成事業の一つである「21世紀COEプログラム」に採択されたことです。「都市文化」をキーワードに文学研究科の総力を結集し各専門分野の枠を超えた先進的な取り組みに次々と挑戦しました。事業終了後もその実績を活かし、都市文化研究センター(UCRC)を中心にさまざまな研究プロジェクトを立ちあげ、若手研究者の国際的発信力育成のための教育プログラムを維持してきました。アジア、ヨーロッパ、アメリカの各大学との学術的交流にも力を注いできました。2013年には文学部創設60周年を迎え、さらなる挑戦への決意を新たにしたところです。

現在、日本の大学は厳しい競争環境に置かれています。国が推進する大学改革のためのさまざまな実行プランに沿った特色ある教育研究プロジェクトを立案し、他の大学と競い合いながら、資金を獲得していかなければなりません。目下、大学に求められているのは、世界を舞台に活躍できる人材の育成、研究成果を地域社会に還元し地域の発展に資する人材の育成です。このような方向性は決して間違っていないと思いますが、競争に勝つことを優先させるあまり、学問が目新しさや目先の利益を追求する浅いものに変質する危険性ははらんでいます。それは私たちの本意ではありません。もとより、学問研究は、人類の幸福を願う気持ちから生まれたものであり、その営みの真髄はいつの時代も変わらぬものであると思います。文学研究科・文学部は、人間の生み出すあらゆる文化事象に関心を持ち、その価値を問い直し、そのような文化を生み出す人間の本質を探究するところです。人間が幸福に生きるためにはどのような社会や文化が必要なのかを見出すこと、これが私たちの使命であると考えます。

この使命を果たすための営みに是非皆様にも加わっていただきたく思います。

文学研究科長 小田中章浩

大阪市立大学大学院文学研究科の4つの特色

1. 世界的な研究拠点

21世紀COE^{*1}プログラム（文部科学省による世界的研究教育拠点形成のための支援事業）や頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム（日本学術振興会）に採択されるなど、文学研究科は、グローバルな研究拠点としての地位を確立してきました。

文学研究科における研究拠点が都市文化研究センター（UCRC^{*2}）です。都市や文化にかかわる研究プログラムがいくつも、並行して進められ、大きな成果を上げています。UCRCは、雑誌『都市文化研究』やオンライン英文電子ジャーナル"UrbanScope"を発行しています。

文学研究科やUCRCは、アジアや欧米の多くの大学と連携しています。教員や若手研究者の相互交流も盛んで、国際的なシンポジウムが数多く開催されています。

※1 COE；Center of Excellence（卓越した研究拠点）

※2 UCRC；Urban-Culture Reserch Center

2. 優秀な教授陣

文学研究科は、人文学、言語学、人間行動学などの多様な学問分野の教員からなっています。伝統的で確立した体系からなる学問分野はもちろん、アジア都市文化学、表現文化学などユニークな特徴をもつ専攻・専修も擁しています。

教員には、学界で活躍するベテラン、中堅の研究者が多い一方、新進気鋭の若手の研究者も少なくありません。彼ら彼女らによる多彩な研究活動は、国内国外で高い評価を得ており、それは大学院生に対する最先端の教育へと結びついています。

3. 若手研究者を育て、伸ばす

文学研究科は、大学院生や、後期博士課程を修了した若手研究者に対して、充実した教育をおこない、安心して研究を進めることができる環境を用意しています。

都市文化研究センターは、若手研究者を「研究員」として採用しています。UCRC研究員になれば、大阪市立大学学術情報総合センター（図書館）を利用したり、研究員プロジェクト（競争的研究）に応募することができます。

インターナショナルスクールでは、自らの研究成果を国際的に発信できる若手研究者を育成するため、さまざまなプログラムを用意しています。学会発表や調査のための海外渡航を支援する制度もあります。さらに、若手研究者が、日本学術振興会の特別研究員に応募したり、科学研究費の申請をしたりする場合、書類の書き方をアドバイスする機会も設けています。

4. 開かれた門戸

大阪市立大学には、留学生の就学・研究を援助するさまざまな制度があります。学費の減免制度、各種の奨学金などです。社会人で大学院を目指そうとするみなさんには、社会人の特性に配慮した入学試験制度（社会人特別選抜）を設けるだけでなく、入学後、じっくりと研究を進めるための長期履修学生制度などを文学研究科として用意しています。

文学研究科はまた、大阪を中心とする地域での活躍、地域との連携を目指しています。上方文化講座は、大阪の地で育まれた伝統芸能「文楽」を学問的体系のもとで学ぶことができる貴重な場です。大阪市立大学は大阪市博物館協会と包括連携協定を結んでいます。研究や人材面で文学研究科は大きな貢献をしています。この他、文学研究科教員の研究成果を広く市民に伝えるため、人文選書（和泉書院）、文学研究科叢書（清文堂）を刊行しています。

■ 研究科の概要

理 念

21世紀を迎えた現在、これまでの「知」のあり方は大きく変わろうとしており、人々の関心や研究目的は多様性をますます帯びつつあります。大阪市立大学文学研究科は、そうした流行する「知」に潜む不易の本質を見すえて、学問的「知」の組み替えに挑戦してきました。そして、以下の理念の下に、学部のコースを基礎とする3専攻14専修のほか、アジア都市文化学専攻を設置し、既存の学問の垣根を越えて、都市文化を複合的にとらえる新しい試みを行ってきました。

- ▶ 人文科学・行動科学の方法や考え方を通して人間、社会、文化、言語の諸事象とそこに内在する普遍性を探究します。
- ▶ 人間、社会、都市、文化をとりまく今日的課題の解決に貢献し得る人文科学・行動科学の構築をめざします。
- ▶ 先端的研究成果をグローバルな視野から情報発信できる国際的競争力を備えた最高水準の教育・研究をめざします。

人材育成の目標

大学院前期博士課程

- ▶ 人文科学や行動科学の分野において、先端的知識と方法を身につけ独創的研究をみずから行いうる人材を育成します。
- ▶ 地域の教育に貢献し、都市が抱えるさまざまな問題の解決に応えうる高度専門職業人を育成します。
- ▶ 生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に対する深い理解を通して、国際社会・地域社会においてさまざまな文化的活動を担うことのできる高度教養人を育成します。

大学院後期博士課程

- ▶ 人文科学・行動科学の最先端の研究課題を創造的に探究する高度な研究能力を備えた研究者を育成します。
- ▶ 国内外の教育研究組織や機関と連携し、人文科学・行動科学の国際的、学際的な研究を主導的に推進する研究者を育成します。

アドミッション・ポリシー

文学研究科は、人間、社会、文化、言語に関心を持つ人間性豊かな人材を育成することを目標としています。それに対応して、以下のような人材を求めます。

大学院前期博士課程

- ▶ 人文科学・行動科学の専門領域に関する明確な問題意識と専門的知識を有する人
- ▶ 社会的経験をふまえて人文科学・行動科学の専門領域の研究を志す人

大学院後期博士課程

- ▶ 人文科学・行動科学の専門領域に関する高度な知識と独創的研究テーマを有する人
- ▶ 研究成果を国内外に発信できる情報発信能力を備えた人

沿 革

大阪市立大学大学院文学研究科は、1953（昭和28）年4月に、社会学・地理学・国文学・中国文学・英文学・独文学の修士課程6専攻をもって発足しました。その1年後の1954（昭和29）年には、哲学・心理学・東洋史学・仏文学専攻が増設され、翌1955（昭和30）年4月には、哲学・社会学・心理学・国文学・中国文学・英文学・独文学の7専攻の博士課程が設置されました。

その後、修士課程・博士課程において順次専攻が設置され、1971（昭和46）年4月に12専攻（哲学・社会学・心理学・教育学・国史学（のち日本史学）・東洋史学・地理学・国文学・中国語中国文学・英文学・独文学・仏文学）すべてにおいて修士課程、博士課程を擁する体制が整いました。

1974（昭和49）年6月の大学院設置基準の制定に伴い、1975（昭和50）年4月から、2年間の前期博士課程と3年間の後期博士課程とに区分され、前期博士課程は修士課程として取り扱われることになりました。以後、長らくこの体制で推移してきましたが、2002（平成13）年4月に大学院が部局化されると同時に、これまでの12専攻は、哲学歴史学・人間行動学・言語文化学の3専攻に再編され、各専攻の中に14の専門分野（専修）が置かれ、これに新しくアジア都市文化学専攻（大学院課程のみ）が設けられました。そして、いずれも前期博士課程と後期博士課程をもつ4専攻として編成されました。

そして、2010（平成22）年4月に、ドイツ語ドイツ文学専修とフランス語フランス文学専修が、ドイツ語フランス言語文化学専修に統合され、また言語情報学が言語応用学専修となり、現在に至ります。

■ 研究科組織

専攻	専門分野（専修）	教授	准教授	講師
哲学 歴史学	哲学	美濃 正 仲原 孝 高梨 友宏	土屋 貴志	
	日本史学	仁木 宏 塚田 孝 佐賀 朝	岸本 直文 磐下 徹	
	東洋史学	平田 茂樹 井上 徹	野村 親義	上野 雅由樹
	西洋史学	大黒 俊二 北村 昌史	草生 久嗣	
人間行動学	社会学	進藤 雄三 石田 佐恵子 伊地知 紀子	川野 英二	笹島 秀晃
	心理学	池上 知子 山 祐嗣	川邊 光一 佐伯 大輔	
	教育学	湯浅 恭正 柏木 敦	添田 晴雄 滝沢 潤 森 久佳	
	地理学	大場 茂明 山崎 孝史 水内 俊雄 <small>（都市研究プラザ教授兼任）</small>	祖田 亮次 木村 義成	
言語文化学	国語国文学	村田 正博 丹羽 哲也 小林 直樹	久堀 裕朗 奥野 久美子	
	中国語中国文学	松浦 恆雄 岩本 真理 張 新民	大岩本 幸次	
	英語英米文学	杉井 正史 田中 孝信	RICHARDS, Ian 古賀 哲男 豊田 純一	
	ドイツ語フランス語圏 言語文化学	神竹 道士 津川 廣行 福島 祥行	高井 絹子 白田 由樹	長谷川 健一
	言語応用学	関 茂樹 井狩 幸男 山崎 雅人 田中 一彦		
	表現文化学	三上 雅子 小田中 章浩 野末 紀之	高島 葉子 海老根 剛	
アジア都市 文化学	中川 眞 野崎 充彦 多和田 裕司	増田 聡 新任教員 <small>（2015年10月 着任予定）</small> 天野 景太		

専攻・専修一覧と特色

専攻	特 色	専 修
哲学 歴史学 専攻	<p>人間の社会と文化の構造・発展を明らかにし、人間のあり方を歴史と文化のなかに追求することを目的とします。哲学と歴史学という、方法論は異なるものの、人間文化の基礎を研究する両分野を統合したところに特徴があります。人間理解のための二つの基本的な座標軸といてよい哲学的観点と歴史学的観点を統合した教育研究体制は、激しく変動する時代潮流の中で、人間の社会とその文化の本質と普遍的価値、さらにその変容を明らかにすることを可能にします。専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人を養成します。専攻内には、学問分野と研究方法に応じて、哲学、日本史学、東洋史学、西洋史学の各専門分野を設けます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・哲学専修 ・日本史学専修 ・東洋史学専修 ・西洋史学専修
人間 行動学 専攻	<p>人間と社会および文化の関係を、とくに社会問題、教育問題や文化摩擦など現代都市の社会が抱える諸問題を視野に入れて、総合的、学際的に捉えるような教育研究を行なうものです。その際に、フィールドワークや実験という行動科学の方法論を基礎に、実証的なデータに基づく人間行動や社会現象の分析と理解や理論化を重視します。人間行動に関する実証的な研究方法を修得させることによって、現実の社会やその中で生活する人間を客観的に観察する目を養い、大学、研究所等の研究職のみならず、教育、福祉、情報産業、官公庁における高度な専門的知識と技術をもった専門家として活躍できる人材を養成します。専攻内には、学問分野と研究方法に応じて、社会学、心理学、教育学、地理学の各専門分野を設けます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会学専修 ・心理学専修 ・教育学専修 ・地理学専修
言語 文化学 専攻	<p>人間の営みの中核をなす言語にかかわる文化現象の全領域、すなわち、言語、文学、文化およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明することをめざします。従来の国家単位・言語単位の専門分野区分に基づくほか、現代の地域横断的な文化状況に対応する新しい専門領域として、言語応用学、表現文化学分野を増強し、これによって、都市化、情報化、国際化の時代にふさわしい教育研究を実現します。さらに西洋古典学、言語学などの分野を、専攻の共通の基礎的知識および周辺領域への広い視野を養うものとして、ここに含めることによって、各専門分野の相互関連性を重視した総合的な言語文化学の確立を目標とします。また、鋭い言語感覚と言語運用能力を備えて、国際社会において活躍しうる人材を養成します。専攻内には、学問分野と研究方法に応じて、国語国文学、中国語中国文学、英語英米文学、ドイツ語フランス語圏言語文化学、言語応用学、表現文化学の各専門分野を設けます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国語国文学専修 ・中国語中国文学専修 ・英語英米文学専修 ・ドイツ語フランス語圏言語文化学専修 ・言語応用学専修 ・表現文化学専修
アジア 都市文化学 専攻	<p>これまでアジアに関する研究は、経済学・政治学の分野に偏っていました。それらに比べて本専攻は、東アジア・東南アジアを中心とするアジアの文化、とりわけ都市文化の現状と特性、その形成、さらに今後の可能性について、人文諸科学の成果を基礎に、学際的、総合的、比較文化的に考究することを目的としています。アジア諸都市の文化研究を軸とした日本ではじめての専攻コースです。教員の専門分野も、比較思想、伝統文化研究、現代都市文化論、文化人類学、芸術学、ポピュラー文化研究など多岐にわたり、既存の学問の垣根を越えて、ひろくアジアを横断し複合的にとらえる視点を養うことができます。また留学生や社会人にも門戸を開放します。語学指導、フィールドワーク指導などにも力を入れ、これまでの大学院に欠けていた「情報交流型」の教育研究を行ないます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア都市文化学専攻

■ 研究支援体制

1 都市文化研究センター (Urban-Culture Research Center; UCRC)

文学研究科・都市文化研究センターでは、毎年数十名のポストドクター・オーバードクターや後期博士課程大学院生などの若手研究者を「UCRC 研究員」として採用し、文学研究科教員の指導のもと、都市・文化に関する研究を推進しています。UCRC 研究員に採用されると、学術情報総合センター（図書館）や UCRC 研究交流室の利用、「UCRC 研究員プロジェクト」への申請が可能となり、UCRC で発行している学術雑誌『都市文化研究』への投稿資格が得られます。また、英文オープンアクセスジャーナル『UrbanScope』にも投稿できます。UCRC に関する詳しい情報は、以下の Web サイトで公開しています。

▶ <http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/UCRC/>

(1) UCRC 研究員プロジェクト

UCRC 研究員は、研究計画を「UCRC 研究員プロジェクト」に申請することができます。これに採用されると研究費が支給され、研究の遂行に必要な物品購入、講師謝金、旅費等に充てることができます。

(2) 日本学術振興会特別研究員申請対策講座

日本学術振興会特別研究員申請のための支援として、特別研究員に採用された経験者が申請書の書き方のポイントを解説したり、面接での様子を報告したりする対策講座を毎年、開催しています。

(3) 科学研究費補助金申請対策講座

科学研究費補助金申請のための支援として、科学研究費の獲得実績の豊富な教員が、申請書の書き方のポイントを解説する対策講座を毎年、開催しています。

(4) 頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム

文学研究科では、日本学術振興会の「頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム」に応募し、これまでに、「東アジア都市の歴史的形成と文化創造力」（2011～2013年度）と「EU域内外におけるトランスローカルな都市ネットワークに基づく合同生活圏の再構築」（2012～2014年度）が採択されています。このプログラムにより、文学研究科大学院生や UCRC 研究員が、中国、韓国、台湾、ドイツ、イタリア、フランスに長期間渡航し、研究実績を積むとともに、研究機関に就職するなどの成果を上げています。

(5) 文学研究科 研究茶話会

UCRC 研究員を中心に、研究分野の異なる教員・若手研究者が集まって研究発表・討論を行う研究茶話会を行っています。

2 文学研究科インターナショナルスクール (International School; IS)

文学研究科では、グローバル化する研究環境に適応し、研究成果を国際的に発信できる若手研究者を体系的に育成するため、多数のプログラムを実施しています。

(1) IS 集中科目

文学研究科がカバーする研究分野について、学外から招いた講師が英語で講義します。また、講義内容について、受講者を交えて英語でディスカッションを行います。集中講義として開講され、前期博士課程の大学院生は、単位を取得することができます。

(2) アカデミック・コミュニケーション (AC) 演習 I・II

英語による研究発表の基礎的スキルを習得することを目的とした授業です。AC 演習 I（前期）では、プレゼンテーション・スキルを、AC 演習 II（後期）では、ライティング・スキルを習得します。前期博士課程の大学院生は、単位を取得することができます。

(3) トレーニング・プログラム (TP)

大学院生やUCRC研究員を対象としたプログラムです。文学研究科の教員と外部語学学校のスタッフを講師として、英語による研究発表（プレゼンテーションソフトを用いた口頭発表形式）の実践的スキルを養成します。5月～9月の期間に月1～2回のペースで実施します。TP受講者は、ISセミナーでの発表者や、アメリカ・イリノイ大学との合同シンポジウムの発表者として推薦されることがあります。

(4) IS 研究交流セミナー

アメリカのイリノイ大学やタイのチュラロンコン大学などから招聘した研究者と若手研究者・文学研究科教員による研究発表会です。トレーニング・プログラムでの訓練の成果を発表する場でもあります。1年に3件程度実施します。

(5) IS 日常化プログラム

文学研究科の各専修が主催して、海外から招聘した研究者の講演を随時実施しています。誰でも参加でき、国際的な研究に日常的に触れる機会を提供しています。

(6) ライティングセミナー実践編

学外から講師を招聘し、英語による実践的な論文執筆法を学びます。

(7) 若手研究者の海外渡航支援

海外での学会発表や調査に対して金銭的補助を行います。毎年、10件前後の申請に対して渡航費の補助をします。

(8) 外国語論文の校閲・翻訳補助

外国語で書かれた論文の校閲や翻訳などの費用を補助します。毎年、10件前後の申請に対して論文校閲の補助をします。

3 大阪市立大学文学部・文学研究科教育促進支援機構

教育促進支援機構は、文学部・文学研究科の教育現場を、課内から課外へと拡張し、また院生・学生の自律性を発揮する場を提供することで、院生・学生自身の学びを促進することを目的とした、全国的にみてもユニークな組織です。

勉強会や読書会、院生主催の教室行事、個人による国内外の調査、教室発行の研究誌などにたいして金銭的支援を行っています。また優秀修士論文賞、雑誌に掲載された院生の論文のなかから優秀なものに研究奨励賞をあたえるなど院生の研究に対する顕彰も行っています。専修間の知的交流をめざした「院生研究フォーラム」、教員ならびに院生間の学問的交流をめざす「文学カフェ」等、院生自身の発案になる企画も多くあります。これらの企画の立案・運営に参加することもまた、院生自身の研究を促進することにつながっています。